

日本白鳥の会今シーズンの調査重点目標

1. ハクチョウ類の定時定点観測

各会員は、それぞれの担当地区にあって、ハクチョウ類の初渡来日時、帰北終認日時の確認のほか、10月から翌年4月までの各月の第2日曜日午前8時より午前10時までの間のハクチョウ類の渡来数を調査し、終了後事務局あて報告すること。

調査票の報告様式は別選のとおり。

2. ハクチョウ類の渡来地における環境保全とその保護区の範囲の設定について

各会員は、それぞれの担当地区にあって、たとえば渡来地が湖沼の場合は、その湖沼をめぐる保護区の範囲は、湖沼の内面のほか、湖沼のほとりの外面の半径何メートル程度を確保すべきか等を調査研究すること。(総会では一応1,000メートルとした)

また風向や地形と渡来、移動コースとの関連、周辺の建築営造物(電柱、道路等もふくむ)等との関連等も考慮して、保護区範囲を研究すること。

この研究結果は、次回総会までに各地区ごとに100部ずつプリントして持参すること。

3. ハクチョウ類の斃死数の確認について(専決事項)

各会員は、それぞれの担当地区にあって、初渡来から飛去終認までの間に斃死したハクチョウ類の個体別総数を確認し、「渡来白鳥の調査票の“その他の所見”欄」に記入し、報告のこと。